

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		キッズサポートsorauta.				公表日	R8年 2月 18日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		運動する部屋とお勉強する部屋が分かれている様になっている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		1日10人に対して資格を持った職員が、しっかりと適切な配置で置かれている。また指導員も追加で配置し、職員の数はしっかりとしている。		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもたちにわかりやすく絵やイラストで表示し、移動の前に活動の部屋「ゾウさんの部屋」机上の部屋「うさぎさんの部屋」などとしてわかりやすく説明もしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の掃除や制作や活動後にしっかりと職員で清掃作業を行っている。		
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		お勉強で集中できない時や、気持ちを整えたときに、自ら移動したり職員が促して落ち着けるように環境を整えている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		どの職員も満遍なく参加できるように設定している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの話をしっかりと聞き、その都度改善に向けての話し合いを行っている。 保護者からの要望や疑問に思っている事などを保護者会で伝えている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個人面談やお昼時間に必ず振り返りを行い、改善点や意見交換が行われている。また、職員の業務連絡ツールで話し合いがもたれている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			今後第三者による外部評価も取り入れていきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内での研修や、職員が外部研修を行った際には、研修報告とともに資料を回覧しスキルアップに努めている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		しっかりと職員と共有し、作成できている。 また、活動表なども職員全体で作成している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		職員で定期的に「ケースカンファレンス」をしっかりと行い、子どもの現状を話し合い個別支援計画を立てている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員で「ケースカンファレンス」をしっかりと行っている。 話し合いの機会をしっかりと作っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		出来上がった支援計画等はすべて職員が読み内容の確認をし、支援を行っている。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントを定期的に行い、日々の行動観察をしっかりと行なううえで、職員間でも共有し統一している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインに沿い5領域を含め、本人支援家族支援など多岐にわたりしっかりと支援計画が作成されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援に携わる職員全員で活動計画の内容を考えている。5領域に沿い、みんなで意見を出し合い話している。		

供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々新しい活動を考え、案を出し職員で話し合い、現状の子どもたちの姿を考えながら、活動を組み立てている。 5領域が度の児童にも満遍なくいきわたるよう計画して	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの現状や、本児の希望、保護者の意向をしっかりとと考えながら、支援計画を作成している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員で内容を確認し、前日や当日話し合い支援の内容を考えている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援を行った職員全員で、振り返りを行い、話し合いをしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動後に支援を行った職員が必ず支援内容の記録の内容の入力を行い支援後に振り返りとして、支援について話し合っている	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを計画計画を立ててしっかりと行っている。	
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所と保護者との担当者会議は定期的に開催されていて、子どもの支援に入っている職員が参加している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保育園や幼稚園などの施設とは連携が密に取れているが、主治医や医療機関とは中々連携までは取っていないが、保護者からの医療機関の話などを聞かせていただいている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各関係機関としっかりと話し合い情報共有を行ったうえで、相互理解に努めている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時には園と連携を取り、移行支援シートの作成を行い、小学校とも連携し相互理解できるよう努めている。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			現段階で、地域の支援センターとの連携はほとんど取れていないので、今後は助言や研修を受ける機会を設けたいと思う。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		年1回、秋祭りを行い地域の方や児童クラブの方と交流を行っている。	
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		公式lineや電話での連絡や送迎時に児童の事を共有している。 連絡帳やSNSを活用して様子を伝えたりと共有をしている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。				ペアトレや家族支援プログラムはできていないので、以前の様にペアトレを職員で学び、活用していけるようにしたい。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、就学時などにしっかりと説明し読み合わせを行っている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの意向や保護者の意向を聞き取りしたうえでケースカンファレンスを行い、その中で職員と話し合いを行い、保護者へ確認する機会を設けている	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	書類を見ながら説明し、必ず同意の上サインを頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	保護者会や電話、メールを気軽にできる環境を作り、児童の事で何かがあった際や不安な時は連絡を頂けるように信頼関係を気づかせている。その際に改めて、事業所での助言や面談を行う事もある。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者会を年2回、児発イベントや放ディイベンツを年1回以上開催し、児発放ディの保護者や兄弟の参加も促し、その際にお互いに話をする時間や交流する機会を作っている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	相談があった際には、迅速に対応し関係機関や職員の共有もしっかりとしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	隔月で放ディと児発の活動中の写真や活動の狙いを保護者へ配信し、児童の事業所での様子や関わりも伝えるようにしている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	個人ファイルは、鍵付きの棚に入れて保管し、鍵は指定した場所へ片づけて、誰でも出せない様にしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	口頭指示だけでなく、イラストやルールの視覚支援を行ったり、保護者で聽覚障害の方がいた場合は相手がわかりやすい様に資格での会話を行ったりしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	毎年秋まつりを行い、地域の方に来ていただけるように、チラシの掲示も地域のお店へお願いして、集客を集めている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	マニュアルを作成し、事業所に来所した際に見れる様に掲示や書類を置いている。	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPは法人で作成し研修や机上訓練をしっかりと行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	アンケートに服薬やてんかん発作の既往歴を書いていただき、該当児童がいないか把握し対処している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	食物アレルギーの把握を行い、危険のあるものも把握しおやつで出さない様に注意し、アンケート調査で把握もしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画は事業所で作成し、市役所へ提出し、配置換えや職員の移動の際は見直している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	避難訓練の際に水害時・災害時の避難場所に避難しその後、避難訓練の様子や避難した場所を保護者に伝えている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	ヒヤリハットが起きた際は事業所だけでなく法人全体で共有し再発防止策を共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	委員会の開催や、研修・訓練を行い適切な対応が出来る様にしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	身体拘束の可能性がある児童に関しては保護者の同意を得るようにして、命の危険がある際には必要に応じて対応することを契約時に全児童の保護者へも同意を頂いている。	